



令和 7 年 1 月 7 日  
長崎海上保安部

【問合せ先】  
長崎海上保安部 交通課長 仮屋 蘭 剛  
TEL 095-829-2819

## 令和6年の船舶事故・人身事故発生状況（速報値） ～ マリンレジャーに伴う海浜事故は減少 ～

長崎海上保安部管内で発生した船舶事故・人身事故の発生件数（速報値）は以下のとおりです。

**船舶事故 27隻** → 昨年より5隻減少

<プレジャーボートの事故は13隻（昨年より6隻減少）>（詳しくは令和6年の船舶事故発生状況へ）

**人身事故 23人** → 昨年より1人減少

<マリンレジャーに伴う海浜事故は2人（昨年より5人減少）>（詳しくは令和6年の人身事故発生状況へ）

※上記の値は速報値であり、今後変更になる可能性があります。

### 事故内容別発生状況（長崎海上保安部管内）

	船舶事故（隻）			人身事故（人）			
	事故種類	令和6年	前年比	事故内容	令和6年	前年比	
船舶事故（隻）	衝突	6	-2	人身事故（人）	海中転落	5	-2
	単独衝突	0	-2		負傷	4	+1
	乗揚	1	±0		病気	5	+4
	転覆	2	±0		自殺	6	+1
	浸水	3	±0		溺水	1	-4
	火災	1	+1		帰還不能	2	-1
	運航不能	13	-3				
	その他	1	+1				

※) 運航不能とは、運航に必要な設備の故障、燃料等の欠乏等により、船舶の航行に支障が生じたことを言います。

# 1 令和6年の船舶事故発生状況（速報値）

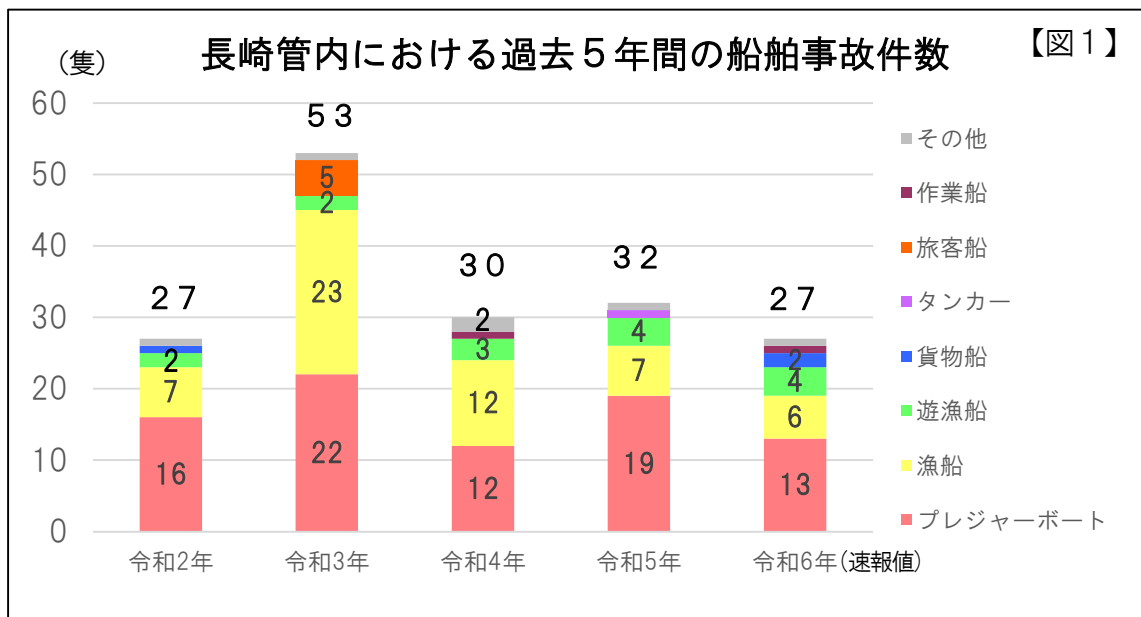
## 船舶事故発生状況と前年比

令和6年中に発生した船舶事故は27隻で、令和5年より5隻減少しました。

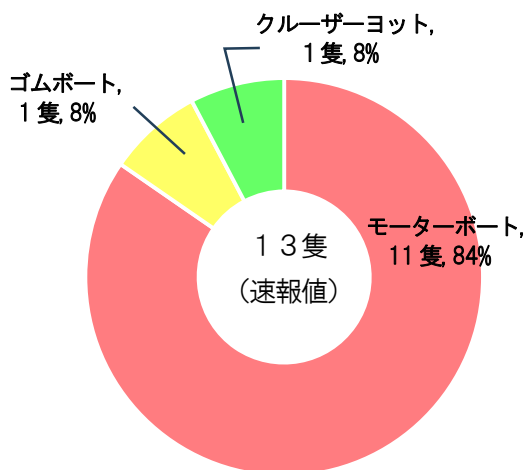
船舶種類別は、プレジャーボートによる事故が13隻と最も多いですが、令和5年より6隻減少しました。【図1参照】

プレジャーボートの用途細別は、モーターボートによる事故が11隻と最も多いですが、令和5年より4隻減少しました。【図2参照】

プレジャーボートの事故種類別は、運航不能による事故が8隻と最も多いですが令和5年より2隻減少しました。【図3参照】

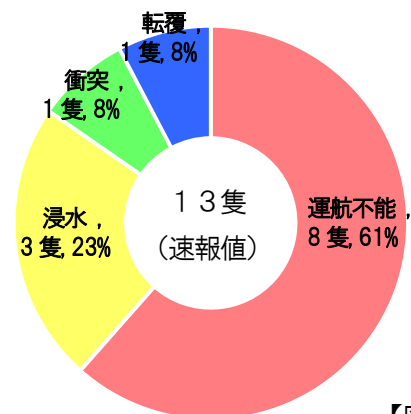


令和6年のプレジャーボート事故隻数（用途細別）



【図2】

令和6年のプレジャーボート事故隻数（事故種類別）



【図3】

## 2 令和6年の人身事故発生状況（速報値）

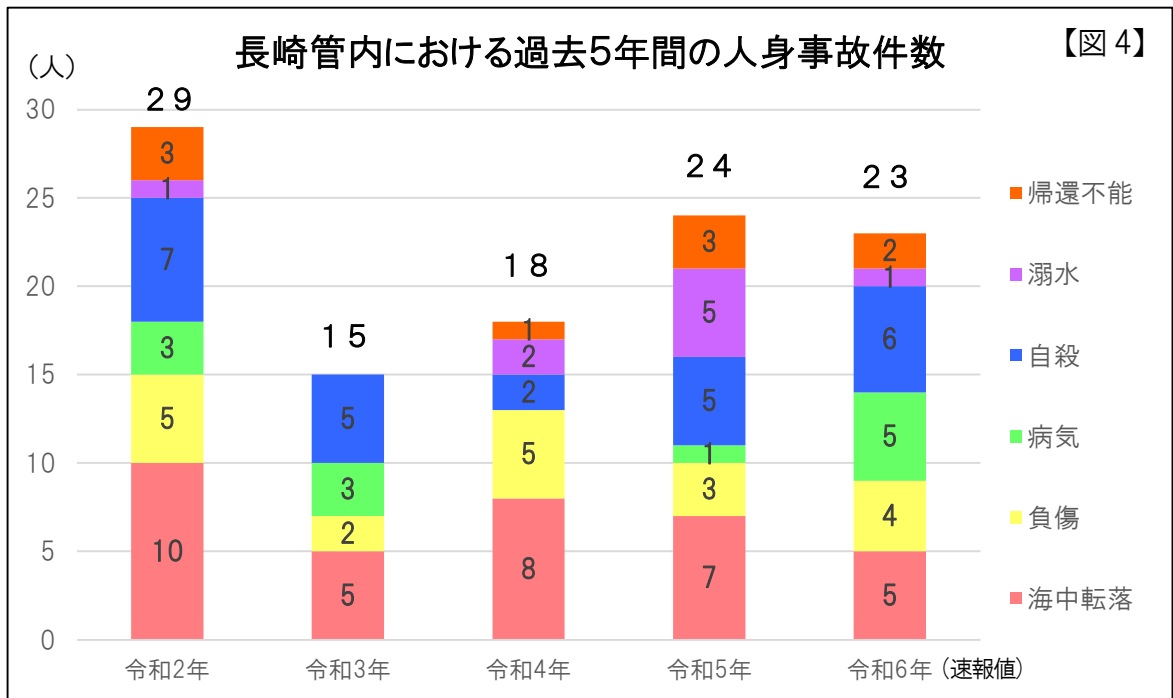
### 人身事故発生状況と前年比

令和6年中に発生した人身事故は23人で、令和5年より1人減少しました。

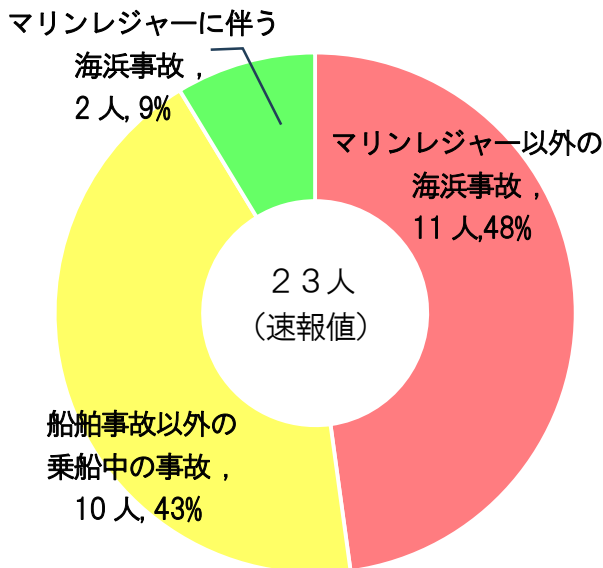
事故内容別は、自殺による事故が6人と最も多く、令和5年より1人増加しました。【図4参照】

事故区分別は、マリンレジャー以外の海浜事故が11人と最も多いですが、令和5年より1人減少しました。【図5参照】

令和6年中に発生した人身事故者数23人のうち、死者・行方不明者数は15人で、令和5年より3人増加しました。【図6参照】

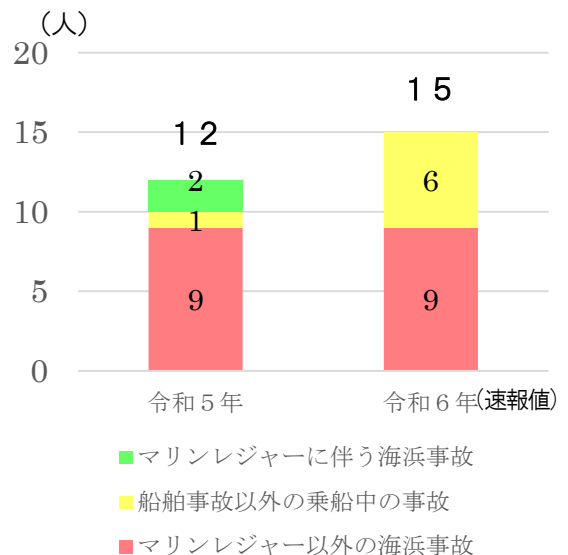


令和6年の人身事故数（事故区分別）



【図5】

事故区分別の死者・行方不明者数



【図6】

### 3 令和6年の事件事例

#### (1) 釣り中にゴムボートが水没、船長は帰還不能

事故概要：船長は、釣りをするためゴムボートで出港し、釣り場で機関を停止させ錨泊しました。その後、突然、ゴムボートから空気が漏れる音が聞こえ、沈没のおそれがあると判断した船長は、自ら海に飛び込み、近くのテトラポットに上陸しましたが、帰ることができず118番通報し、水没したゴムボートとともに巡視艇等により救助されました。ゴムボートが水没した原因は、継ぎ目部分が破れたことで空気が漏れたことによる経年劣化でした。



#### (2) 航行中の貨物船と操業中の漁船が衝突

事故概要：当直体制1名で航行していた5名乗りの貨物船は、船首方向にいる漁船を目視及びレーダーで確認した状態で漫然と航行を継続しており、また、2名乗りの漁船は、魚群探知機の操作を行って航行していたところ、貨物船は操船を誤り、漁船は見張り不十分により衝突しました。



衝突した貨物船



衝突して船首部分が大破した漁船